

1. 9月の海況概要

○東シナ海～黒潮域

・2017年秋に発生した黒潮大蛇行は9月も継続し、発生から3年が経過した。

・黒潮の流路は、九州～四国及び熊野灘～遠州灘付近で流軸が大きく離岸（図1A）し、御蔵島付近を通過するU字型の流路（図1B）をとった。最南下緯度は29～30°N付近であった。

・本州南方沖（図1C）では、1982年以来最も高温（気象庁統計資料による）であった8月に引き続き、30℃以上の高温水が分布した。

・平均海面水温は沖縄周辺では28～29℃、九州～四国沖は27～28℃、伊豆諸島付近は28～29℃に降温した。九州～四国沖は冷水渦や台風9・10号が通過した影響で前年より1～2℃前後低めで、東シナ海北部（図1F）も台風9・10号が通過した影響で1～2℃低めであった。

○親潮域・混合水域

・黒潮続流は、前月とほぼ同じ37°N付近まで北上していたが、下旬にかけて変動が大きくなった。

・常磐北部～三陸～北海道沖では、142～145°Eを20℃以上の暖水が釧路沖まで北上した。

・釧路南沖には前月に比べれば降温したが、依然として18℃以上の暖水塊が形成されていた。この暖水塊は前年より接岸しており、道東沿岸の海面水温（図1D）は1～2℃高めであった。

・三陸北部～北海道東方沖（図1E）は前年より日射が少なく風が強かった等、気象の影響もあり前年より低めであ

った。

・親潮は明確な沿岸分枝はなく、沖合分枝は41～42°N・147～148°E付近が南限であった。9月も親潮の面積は平年より小さい状態が続いた。

○日本海

・日本海西部（図1F）は台風9・10号が通過した影響で前年より2～3℃低めであった。

・北陸沿岸は、27℃以上の暖水に覆われて前年より1℃前後高めであった。

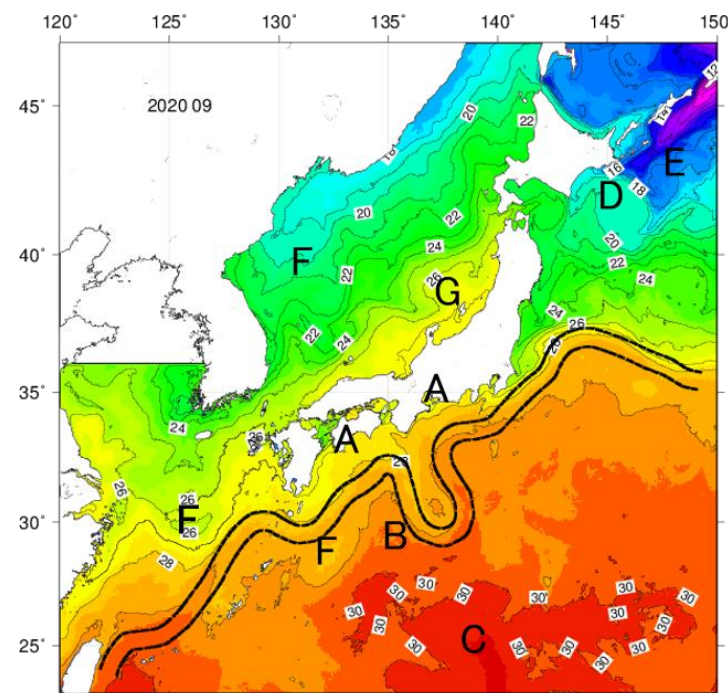


図1-1. 9月の平均海面水温と9月中旬の黒潮流軸

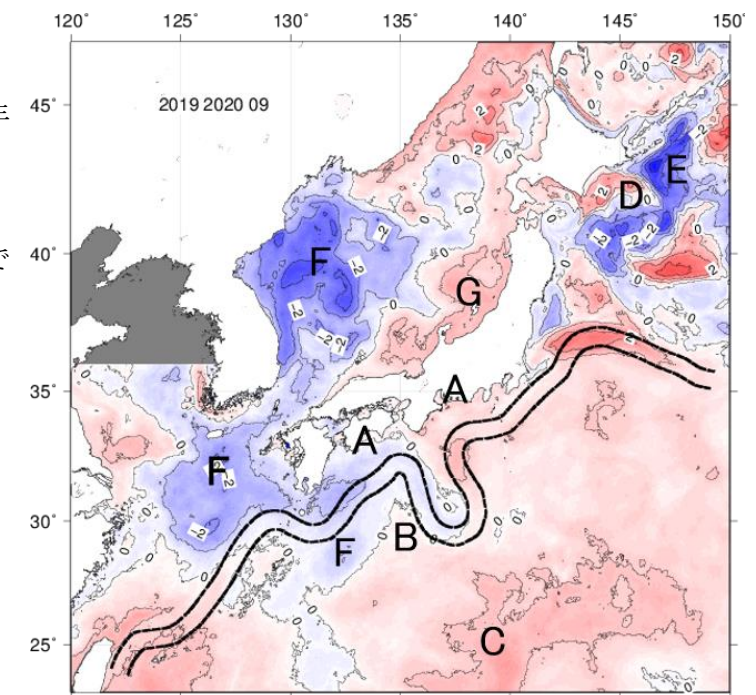


図1-2. 9月の平均海面水温の前年偏差

2. 今年4回目の黒潮蛇行からの冷水渦切離

○6月下旬～7月上旬の黒潮蛇行からの冷水渦切離、7月下旬～8月上旬及び8月下旬～9月上旬の冷水渦の切離と再結合に引き続き、9月末～10月初めにかけて今年4回目の冷水渦の切離が起こった。

・9月上旬～下旬の前半は9月の海況概要のとおり、黒潮蛇行はU字型の安定した流路であった。しかし、9月下旬の後半になると九州東沖の冷水（図2-1A）が発達して明確な冷水渦になると共に、黒潮蛇行がくびれ始めた（図2-1B）。

・10月1日には、九州東沖の冷水渦（図2-2A）は拡大し、蛇行のくびれが強まり（図2-2B）、逆Ω型の特徴的な経路になった。

・10月5日になると、九州東沖の冷水渦（図2-3A）は維持され、蛇行はくびれの部分がくっ付いて、蛇行の南方に冷水渦

(図 2-3B)が切り離された。蛇行は室戸岬沖と大王埼沖に峰の部分がある M 字型の経路となった。

・10 月 15 日現在、台風 14 号通過に伴う水温低下もみられるが、切離された冷水渦(図 2-4B)は 10 月 5 日より黒潮流軸から若干離れている。

・今のところ、切離された冷水渦と黒潮流軸は離れていく傾向にあるので、7 月下旬～8 月上旬及び 8 月下旬～9 月上旬のような冷水渦の再結合は起こらないと思われる。しかし、九州東沖の冷水渦が今後、東進して再び大蛇行に移行する可能性がある。これらの冷水塊の今後の動きを注意してみたい。

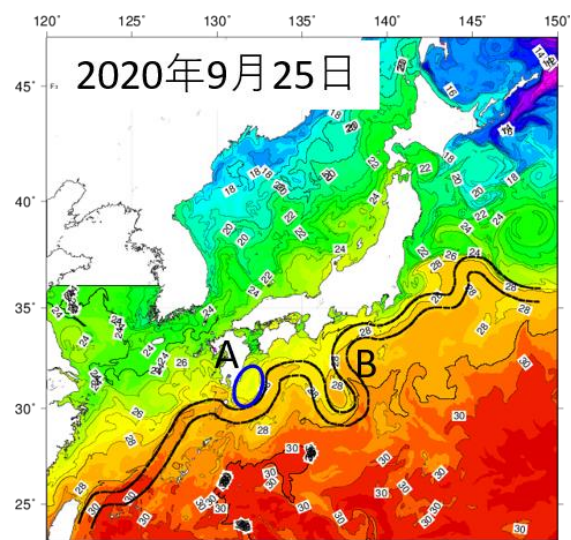


図 2-1. 9 月 25 日の海面水温と黒潮流軸

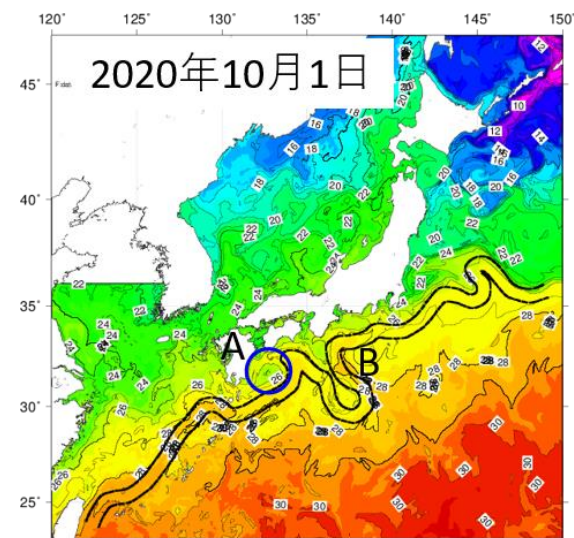


図 2-2. 10 月 1 日の海面水温と黒潮流軸

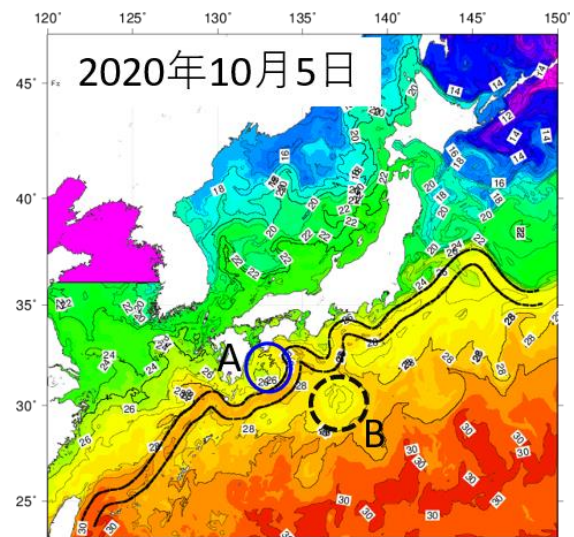


図 2-3. 10 月 5 日の海面水温と黒潮流軸

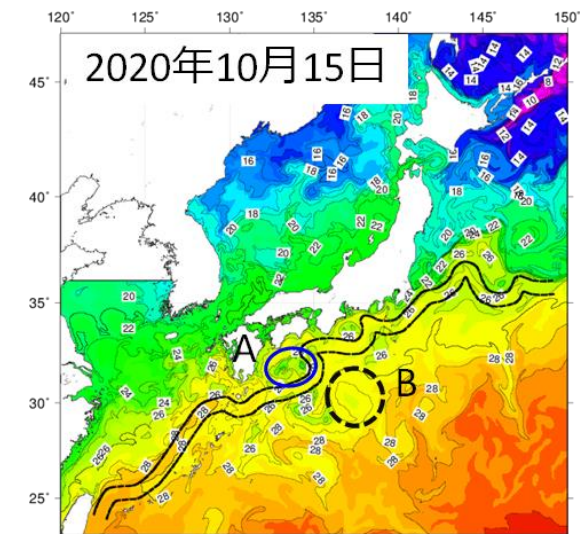


図 2-4. 10 月 15 日の海面水温と黒潮流軸